| 2017年度　帰国隊員/青年支援プロジェクト　実施報告書　　提出日　2018年8月24日 | | |
|---|---|---|
| 氏名：巣内　秀太郎 | 実施国：ケニア共和国 | 協力活動 |
| 活動名称 | ケニア国ホマベイ郡ビタ準郡におけるエイズ孤児と保護者に対するライフプランニング支援事業 | |
| 実施期間 | 2017年8月1日　～　2018年7月31日 | |

（1）申請した動機

①私の場合ですが、現在所属する国際協力NPOの事業の一環として活動を行い、その活動費として助成申請をしました。まずは同NPOへの入職の動機についてお書きします。同NPOには、青年海外協力隊の任期を終えて、すぐに入職しました。協力隊としてケニアのエイズ対策に関わる中で、現地のNGOの方々と接する機会に恵まれ、自分自身も草の根でエイズ対策に関わりたいという思いが芽生え、ケニアとウガンダでHIVやエイズに影響を受ける子どもたちを支援する団体の職に就きました。②次に、活動についてですが、活動地であるホマベイ郡は、ケニアの中でもHIV感染率が最も高い地域です（成人のHIV感染率が25.7%）。その影響で親が亡くなり残される子どもたちも多く、約11万人の子どもが孤児や脆弱な環境下にある子ども（Orphans and Vulnerable Children = OVC）として暮らしています。HIVやエイズのセクターでは、治療や予防などの保健医療の支援事業や国際援助が多く、HIV陽性の親や保護者のもとに暮らす子どもたちに注目が集まることはほとんどありません。経済的に脆弱な環境にあるだけでなく、親のHIVやエイズのことで差別を受けたり、複雑な思いを抱えたりしながら過ごしています。親も子どもも、将来への希望が無く、そのため留年や中退のリスクが高いのが現状です。③こうした状況に対して、子どもたちが自身の置かれた状況に屈せず、自ら未来を切り拓くために必要なスキルを獲得することを目的に、また子どもたちの進路を支える保護者のキャパシティーを目的に、カウンセリング活動によるライフプランニング支援を立案しました。1期目の30家庭への支援が完了し、事業の良い効果が確認されたことから、活動をもっと多くの家庭の子どもたちに届けるために、2期目の活動費として助成金を申請しました。

（2）活動内容概要

①研修を受けたソーシャルワーカーによる、子どもと保護者に対する個別カウンセリング活動の実施（子どもと保護者は別々に実施）
②個別カウンセリングとは別に、キャリアトークセッションの開催、セカンダリースクール教頭による進学情報共有会の開催
③ベースライン調査とエンドライン調査による活動効果の検証
④現地行政の森林局や農業局と共同で、保護者に対する樹木と在来種野菜を組み合わせた農業支援活動
※本活動は助成対象外かつ、現在も進行中（2018年12月終了予定）

（3）活動の成果・苦労した点・反省点等

①30家庭の子どもと保護者（全て片親家庭）に全7回のカウンセリングとその他のセッションを提供しました。
②子どもの成果：ライフスキル、キャリア発達の度合、自己効力感、将来への希望の得点が改善されていることが確認されました。将来への準備の得点が改善されていることが確認されました。また実際に将来の夢や目標に向けて学業に励んでいます。
③保護者の成果：子どもの教育に対する態度、子どもの発達や教育関連行動の得点が改善されました。またセカンダリースクールに関する十分な情報を持っている保護者の割合も増えました。家計スキルと貯蓄行動が改善されていることが確認されました。また学費の滞納額も減りました。
④苦労した点は、活動地に常時いられなかったことで、現地NGOと遠隔でやりとりをする必要があったことです。現場をたくさん見られなかったのは残念ですが、現地NGOの力を信じ、彼らに任せることで、彼らの能力強化にもつながったと考えています。
⑤反省点は、予定していたよりも完了時期が遅くなってしまったことです。

（4）今後のプラン

現地で一緒に活動する現地NGOと本事業の3期目の開始に向けて調整をしていきます。これまでの経験から、カウンセリング活動と生計向上を組み合わせることで、将来を前向きに捉え準備や行動をしていく姿勢が作られていくだけでなく、実際に資源の活用に結びつき、相乗効果があることが分かっています。3期目の受益者に対しても、2つの活動を組み合わせて行えるよう、資金調達を進め、取り組んでいきたいと考えています。た、これまで事業実施にあたっては、地域のステイクホルダーの巻き込みが弱かったので、さらに巻き込みをはかり、事業について、また片親家庭の子どもや保護者が抱える課題について、地域の人々の理解や参加を促していきたいと考えています。